

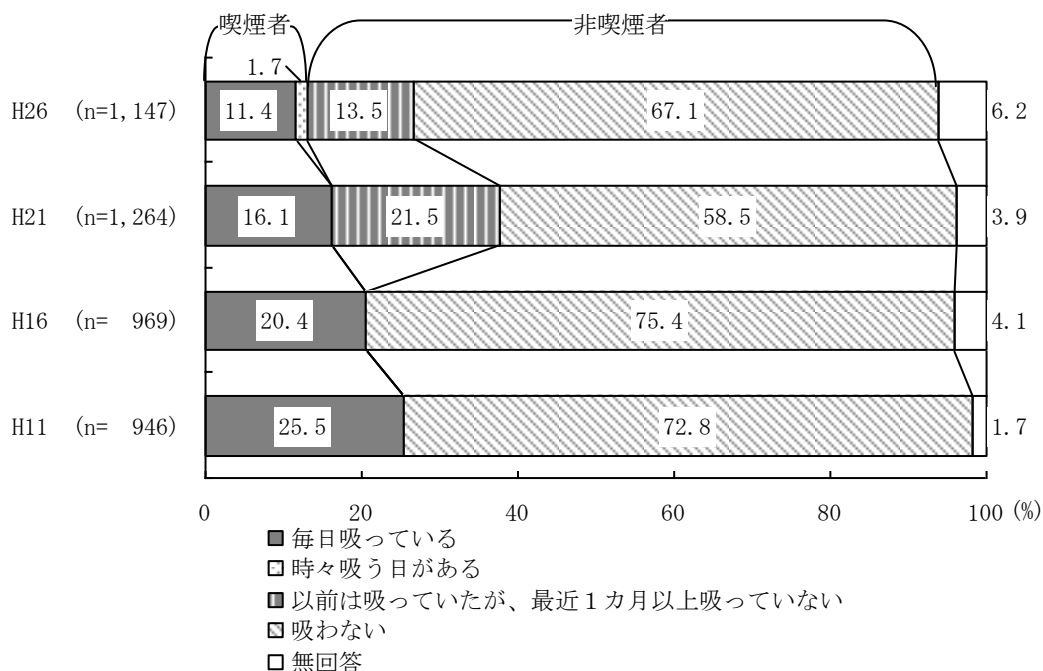
7. たばこについて

(1) 喫煙状況

—喫煙者の割合は着実に減少している—

問36 (1) 20歳以上のかたにおうかがいします。あなたはたばこを吸いますか。
(10代のかたは問37へ)

図7-1 喫煙状況



※「時々吸う日がある」「以前は吸っていたが、最近1カ月以上吸っていない」は、H16調査以前は選択項目なし

※H26年調査では、厚生労働省「国民健康・栄養調査」の質問項目に合わせ、「時々吸う日がある」を増設した。

たばこを吸うか聞いたところ、「毎日吸っている」が11.4%、「時々吸う日がある」が1.7%、「以前は吸っていたが、最近1カ月以上吸っていない」が13.5%、「吸わない」が67.1%であった。経年でみると、「毎日吸っている」の比率が前回調査からさらに低くなっている(図7-1)。

喫煙者を性別・年代別にみると、男性では20代、40代、70代が、女性では30代から50代において、喫煙者の比率が減少している。しかし、男性の50代や60代、女性の20代では、前回調査と比較して「吸っている」人の増加がみられる(図7-2)。

『健康めぐろ21』の「5-1-3 喫煙者の割合を減少させる」の平成27年度目標値は15%以下となっているが、現状では13.1%と、目標値を達成している(表7-1)。

図 7-2 喫煙者の比率（性別・年代別）

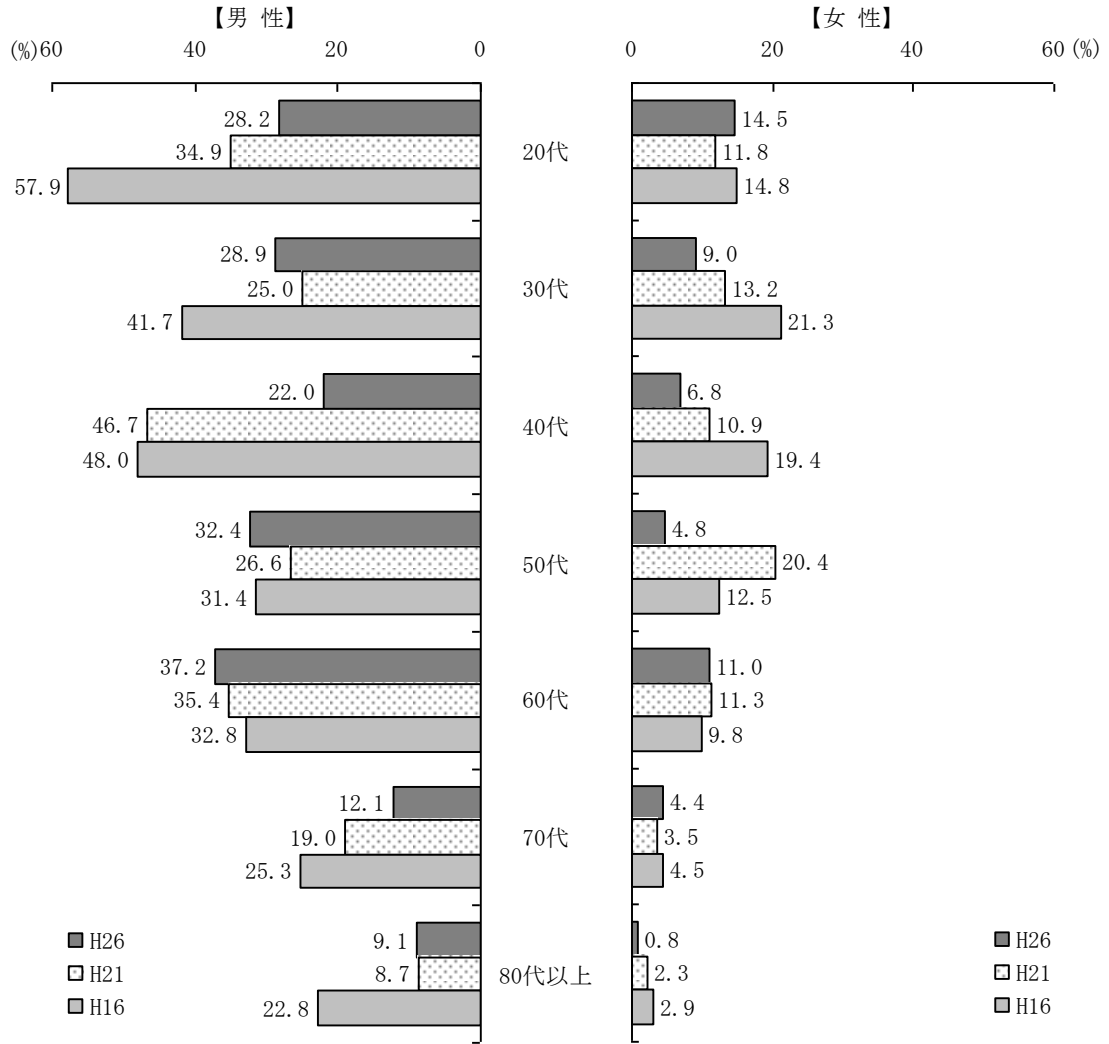


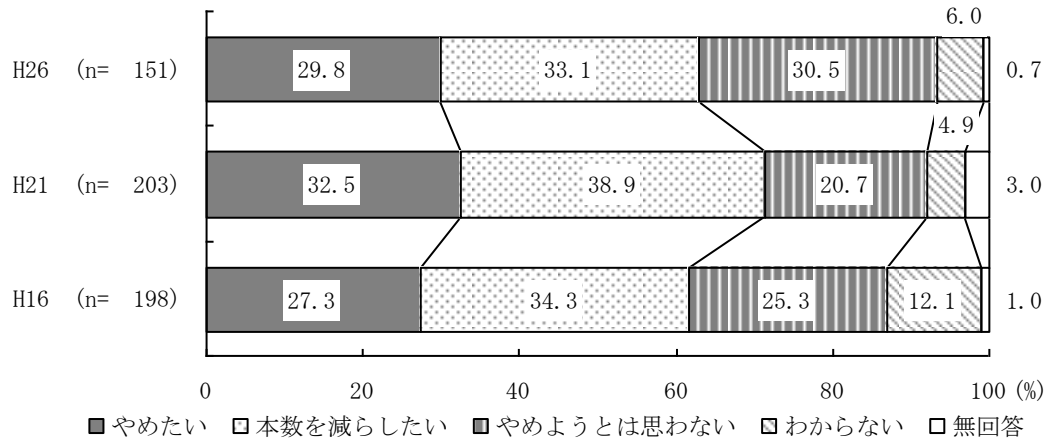
表 7-1 「健康めぐろ 21」目標値との比較（5-1-3）

健康めぐろ 21 行動目標		調査結果等				平成 27 年度 目標値
		計画 策定時 の状況	平成 16 年	平成 21 年	平成 26 年 (今回)	
5-1-3	喫煙者の割合を減少させる	25.5% (※)	20.4%	16.1%	13.1%	15%以下

※ H11 目黒区健康づくり調査

問36(2) (1)で①または②と答えたかたにお尋ねします。
喫煙をやめたり減らしたいと思いますか。(〇は1つ)

図7-3 禁煙・減煙意識



問36(1)で「吸っている」と回答した人に、喫煙をやめたり減らしたいと思うか聞いたところ、「やめたい」が29.8%、「本数を減らしたい」が33.1%、「やめようとは思わない」が30.5%となり、喫煙者のうち6割以上が「やめたい」「本数を減らしたい」と回答している。経年でみると、「やめたい」または「本数を減らしたい」が前回調査に比べて低くなっており、「やめようとは思わない」の比率が増加している(図7-3)。

『健康めぐろ21』の「5-3-2 禁煙をしようとする人を増やす」の目標項目となっている「禁煙したいと思っている人」の平成27年度目標値は平成21年時の32.5%より上げるとなっているが、現状では29.8%であった(表7-2)。

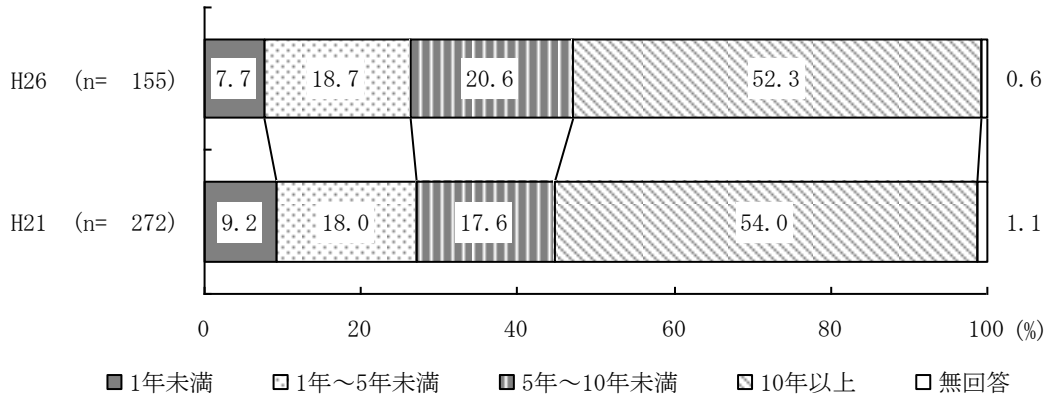
表7-2 「健康めぐろ21」目標値との比較(5-3-2)

健康めぐろ21 行動目標			調査結果等				平成27年度目標値
			計画策定時の状況	平成16年	平成21年	平成26年(今回)	
5-3-2	禁煙をしようとする人を増やす	禁煙したいと思っている人	29.2% (※)	27.3%	32.5%	29.8%	現状より上げる

※ H11 目黒区健康づくり調査

問36(3) (1)で③と答えたかたにお尋ねします。
 たばこを止めてから何年経ちましたか。(〇は1つ)

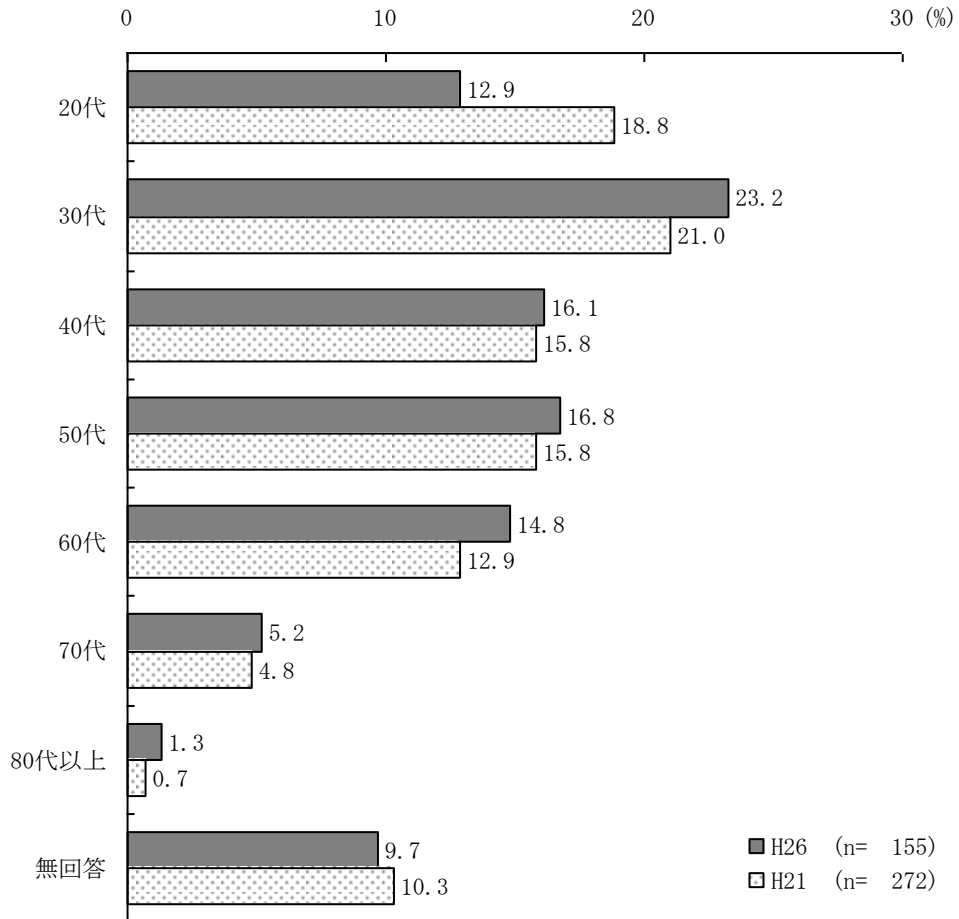
図7-4 たばこを止めてからの期間



問36(1)で「以前は吸っていたが、最近1カ月以上吸っていない」と回答した人に、たばこを止めてから何年経ったか聞いたところ、「1年未満」が7.7%、「1年～5年未満」が18.7%、「5年～10年未満」が20.6%、「10年以上」が52.3%であった。前回調査と比較すると、「5年～10年未満」の比率が増加している(図7-4)。

問36(4) (1)で③と答えたかたにお尋ねします。
何歳代でたばこを止めましたか。(○は1つ)

図7-5 たばこを止めた年齢

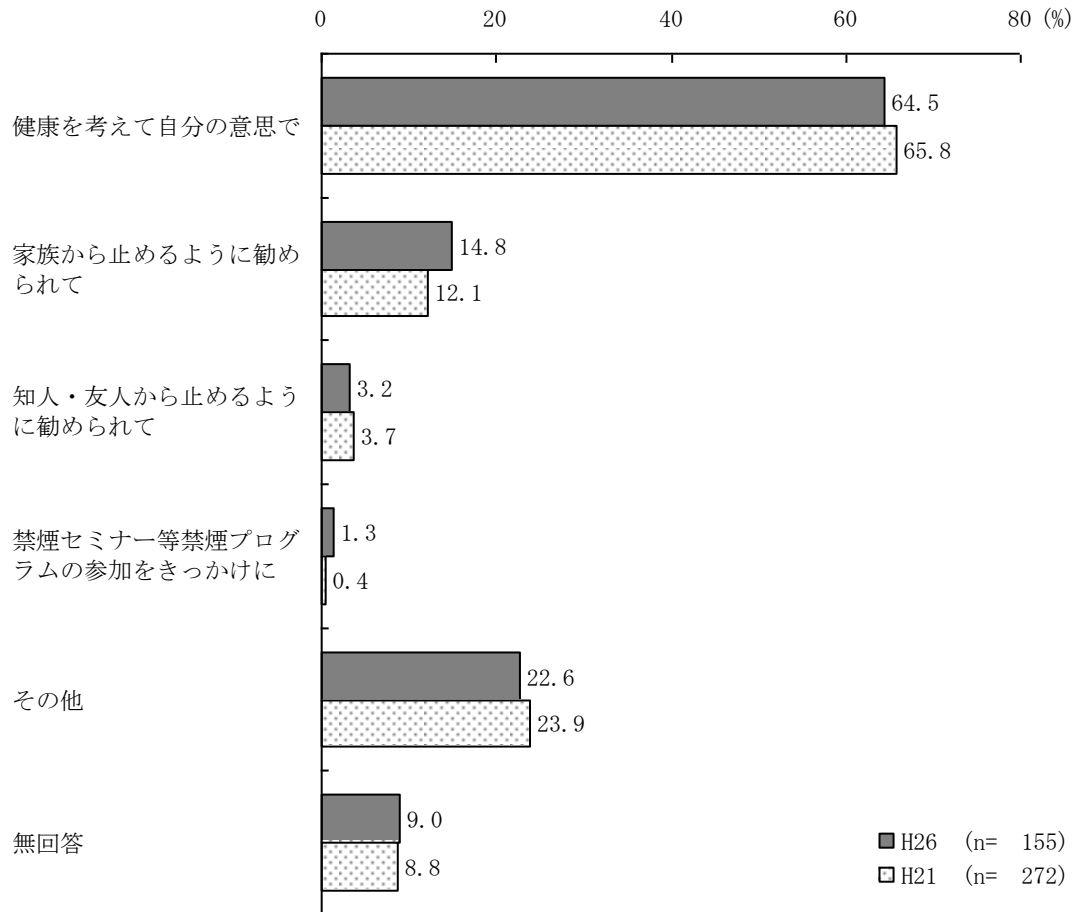


問36(1)で「以前は吸っていたが、最近1カ月以上吸っていない」と回答した人に、何歳代でたばこを止めたか聞いたところ、「20代」が12.9%、「30代」が23.2%、「40代」が16.1%、「50代」が16.8%、「60代」が14.8%、「70代」が5.2%、「80代以上」が1.3%であった。前回調査と比較すると、「20代」の比率が大幅に減少している(図7-5)。

問36 (5) (1) で③と答えたかたにお尋ねします。

何をきっかけにたばこを止めましたか。(当てはまるものにすべてに○)

図7-6 たばこを止めた理由



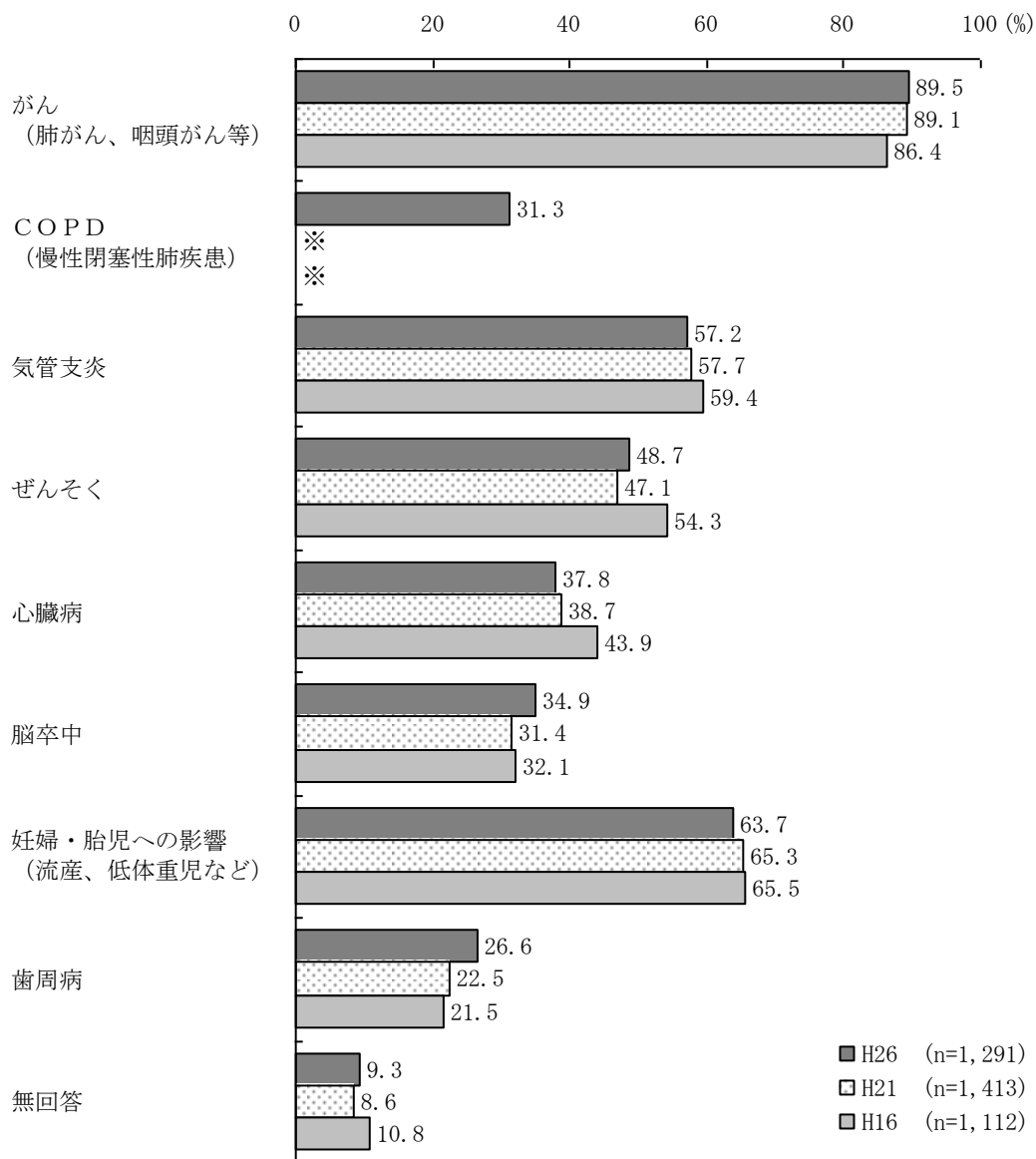
問36 (1) で「以前は吸っていたが、最近1カ月以上吸っていない」と回答した人に、何をきっかけにたばこを止めたか聞いたところ、「健康を考えて自分の意思で」(64.5%)が最も高く、次いで「家族から止めるように勧められて」が14.8%、「知人・友人から止めるように勧められて」が3.2%、「禁煙セミナー等禁煙プログラムの参加をきっかけに」が1.3%であった。前回調査と比較すると、「家族から止めるように勧められて」の比率が増加している(図7-6)。

(2) 喫煙による健康影響の認識

－ COPD、心臓病、脳卒中、歯周病への影響に対する認識度が低い－

問37 喫煙による健康影響について、知っているものはどれですか。
(当てはまるものすべてに○)

図7-7 喫煙による健康影響の認識



※「COPD (慢性閉塞性肺疾患)」は、H21 調査以前は選択項目なし

喫煙による健康影響について知っているものを聞いたところ、最も高いのが「がん(肺がん、咽頭がん等)」(89.5%)であり、次いで「妊婦・胎児への影響(流産、低体重児など)」(63.7%)、「気管支炎」(57.2%)が50%を超える高い比率となっている。経年でみると、大きな差異はみられず、同じ様な結果となっている(図7-7)。

『健康めぐろ 21』の「5-1-1 喫煙による健康への影響を知っている人を増やす」について、健康影響の認識率は「肺がん」では 89.5%であり、前回調査とほぼ同じ比率である。同様に、「ぜんそく」(48.7%)、「気管支炎」(57.2%)、「心臓病」(37.8%)についても、前回調査の比率とほぼ同じである。「脳卒中」(34.9%)、「歯周病」(26.6%)については、前回調査と比べて比率が上昇してはいる。また、どの項目でも目標値を下回っている(表 7-3)。

表 7-3 「健康めぐろ 21」目標値との比較 (5-1-1/5-1-2)

健康めぐろ 21 行動目標			調査結果等				平成 27 年度 目標値
			計画 策定時 の状況 (※)	平成 16 年	平成 21 年	平成 26 年 (今回)	
5-1-1	喫煙による健康への影響を知 っている人を増やす	肺がん	84.5%	86.4%	89.1%	89.5%	93.0%以上
		ぜんそく	59.9%	54.3%	47.1%	48.7%	65.9%以上
		気管支炎	65.5%	59.4%	57.7%	57.2%	72.1%以上
		心臓病	40.5%	43.9%	38.7%	37.8%	44.6%以上
		脳卒中	35.1%	32.1%	31.4%	34.9%	38.6%以上
		歯周病	27.3%	21.5%	22.5%	26.6%	30.0%以上
5-1-2	喫煙による妊婦への影響を知っている 人を増やす	79.6%	65.5%	65.3%	63.7%	90%以上	

※ 国基準値

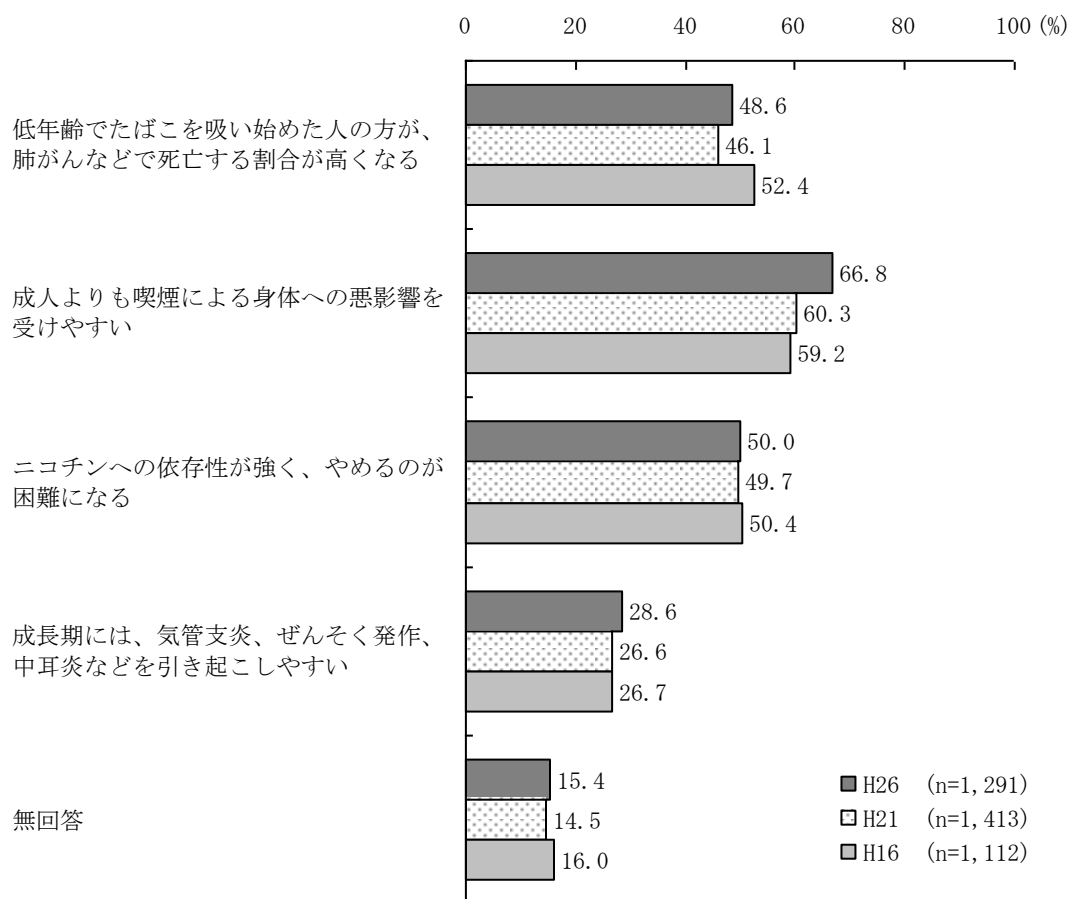
(3) 未成年者の喫煙による健康影響の認識

－「成人よりも喫煙による身体への悪影響を受けやすい」への認識は増えている－

問38 未成年者の喫煙は健康への影響が大きいため、法律により禁止されていますが、具体的にどのような影響を受けるか知っているものはどれですか。

(当てはまるものすべてに○)

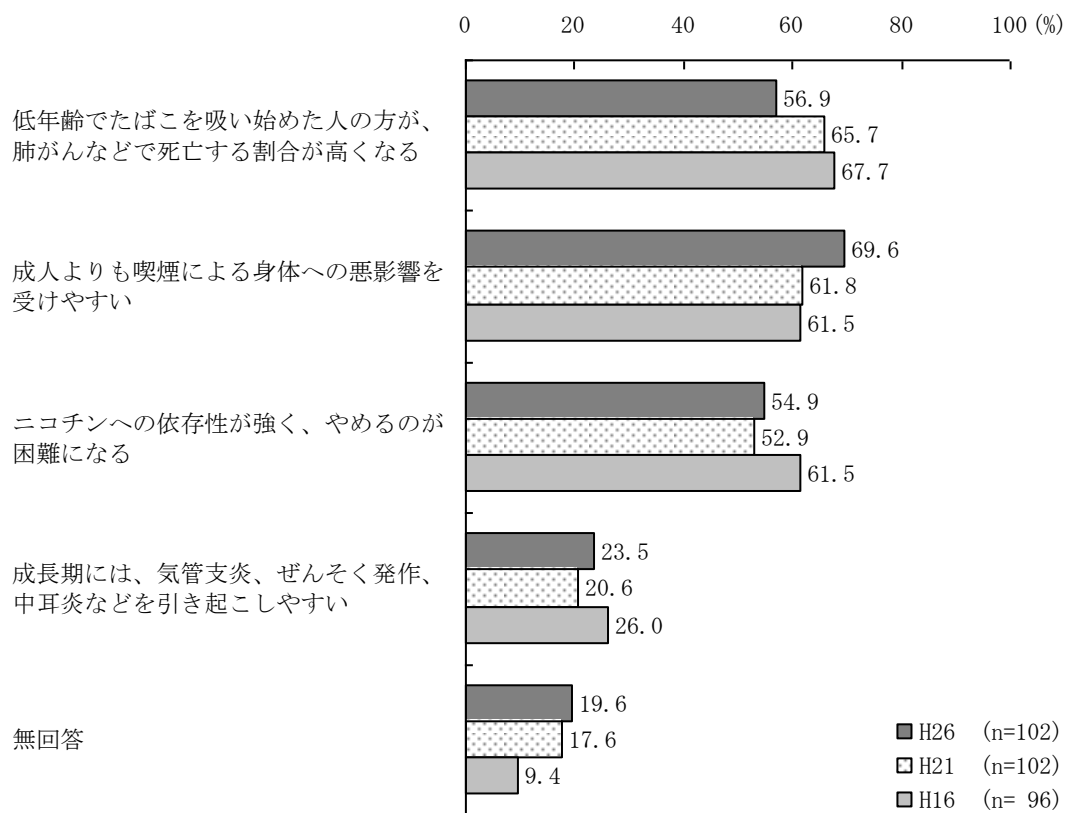
図7-8 未成年者の喫煙による健康影響の認識



未成年者の喫煙による健康影響について知っているものを聞いたところ、全体では「成人よりも喫煙による身体への悪影響を受けやすい」(66.8%)が最も高く、次いで「ニコチンへの依存性が強く、やめるのが困難になる」(50.0%)、「低年齢でたばこを吸い始めた人の方が、肺がんなどで死亡する割合が高くなる」(48.6%)の順となった。経年でみると、「成人よりも喫煙による身体への悪影響を受けやすい」の比率が前回調査から6ポイントの増加となっている。(図7-8)。

中高生のみでの回答でみると、「成人よりも喫煙による身体への悪影響を受けやすい」(69.6%)の比率が最も高く、前回調査と比べて7ポイント以上の増加となっている。(図7-9)。

図 7-9 未成年者の喫煙による健康影響の認識（中高生の回答）



『健康めぐろ 21』の「5-4-1 中学生、高校生で喫煙による健康への悪影響を理解している生徒を増やす」については、平成 27 年度目標値は全ての項目で 100%となっているが、今回調査で中高生を合わせた比率をみると、どの項目でも目標値を大幅に下回っている(図 7-9、表 7-4)。

表 7-4 「健康めぐろ 21」目標値との比較（5-4-1）

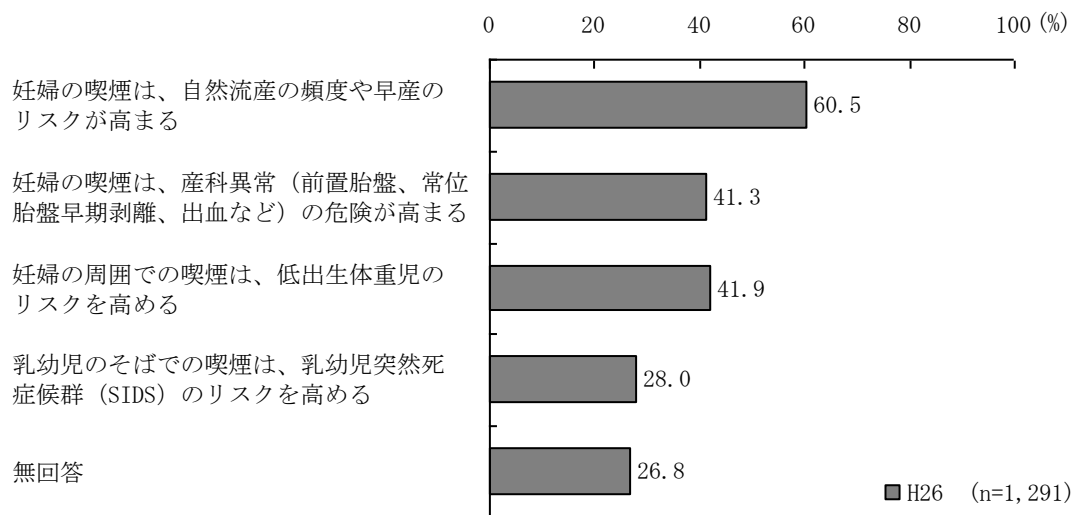
健康めぐろ 21 行動目標			調査結果等				平成 27 年度 目標値	
			計画 策定時 の状況	平成 16 年		平成 21 年		平成 26 年 (今回)
				中学生	高校生	中高生		中高生
5-4-1	【重点】 中学生、高校生 で喫煙による 健康への悪影 響を理解して いる生徒を増 やす	成人よりも健康影響が大きい	-	73.3%	59.3%	61.8%	69.6%	
		低年齢で喫煙を始めた方が、肺がんなどの死亡率が高くなる	-	66.7%	67.9%	65.7%	56.9%	
		ニコチン依存が強く、やめるのが困難	-	80.0%	58.0%	52.9%	54.9%	
		成長期には気管支炎、ぜんそく発作、中耳炎等を引き起こしやすい	-	20.0%	27.2%	20.6%	23.5%	

(4) たばこによる妊婦・乳幼児への健康影響の認識

— 6割の人が、「妊婦の喫煙は、自然流産の頻度や早産のリスクが高まる」と認識している —

問 3 9 妊婦自身の喫煙や、妊婦および乳幼児の受動喫煙が、どのような影響があるか具体的に知っているものはどれですか。(当てはまるものすべてに○)

図 7-10 たばこによる妊婦・乳幼児への健康影響の認識



妊婦自身の喫煙や、妊婦および乳幼児の受動喫煙がどのような影響があるかを聞いたところ、「妊婦の喫煙は、自然流産の頻度や早産のリスクが高まる」(60.5%)が最も高く、次いで「妊婦の周囲での喫煙は、低出生体重児のリスクを高める」(41.9%)、「妊婦の喫煙は、産科異常(前置胎盤、常位胎盤早期剥離、出血など)の危険が高まる」(41.3%)、「乳幼児のそばでの喫煙は、乳幼児突然死症候群(SIDS)のリスクを高める」(28.0%)の結果となった(図7-10)。

性別・年代別にみると、男性では各年代とも「妊婦の周囲での喫煙は、低出生体重児のリスクを高める」の比率が低い(図7-11、図7-12)。

図 7-11 たばこによる妊婦・乳幼児への健康影響の認識（男性・年代別）

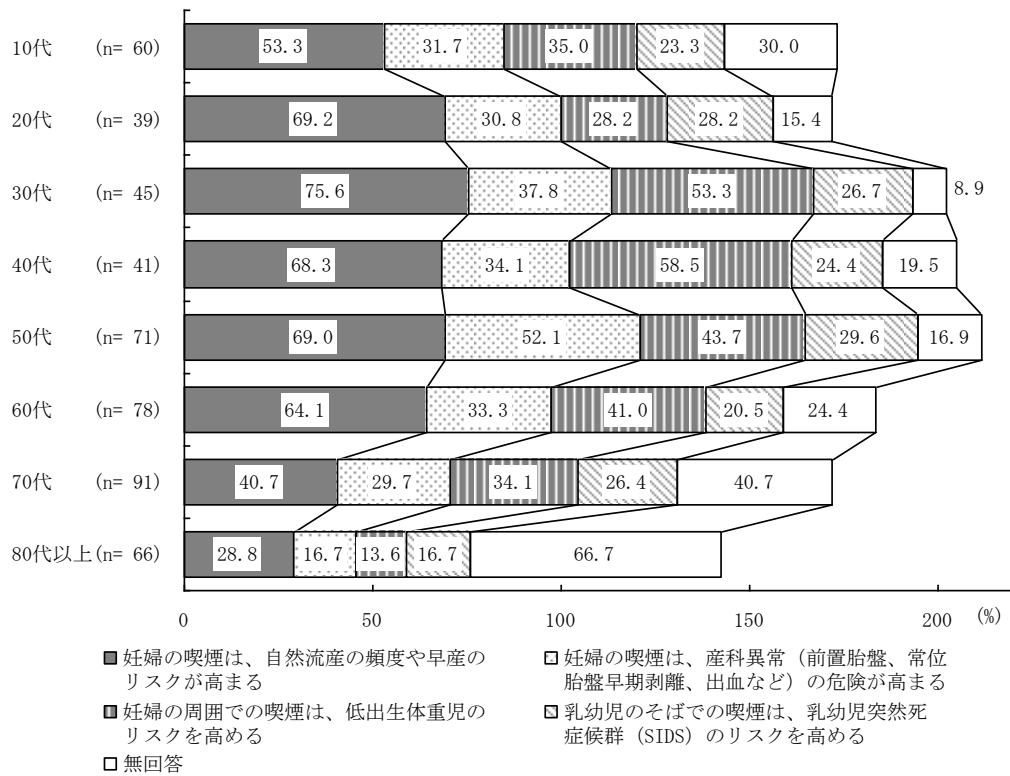
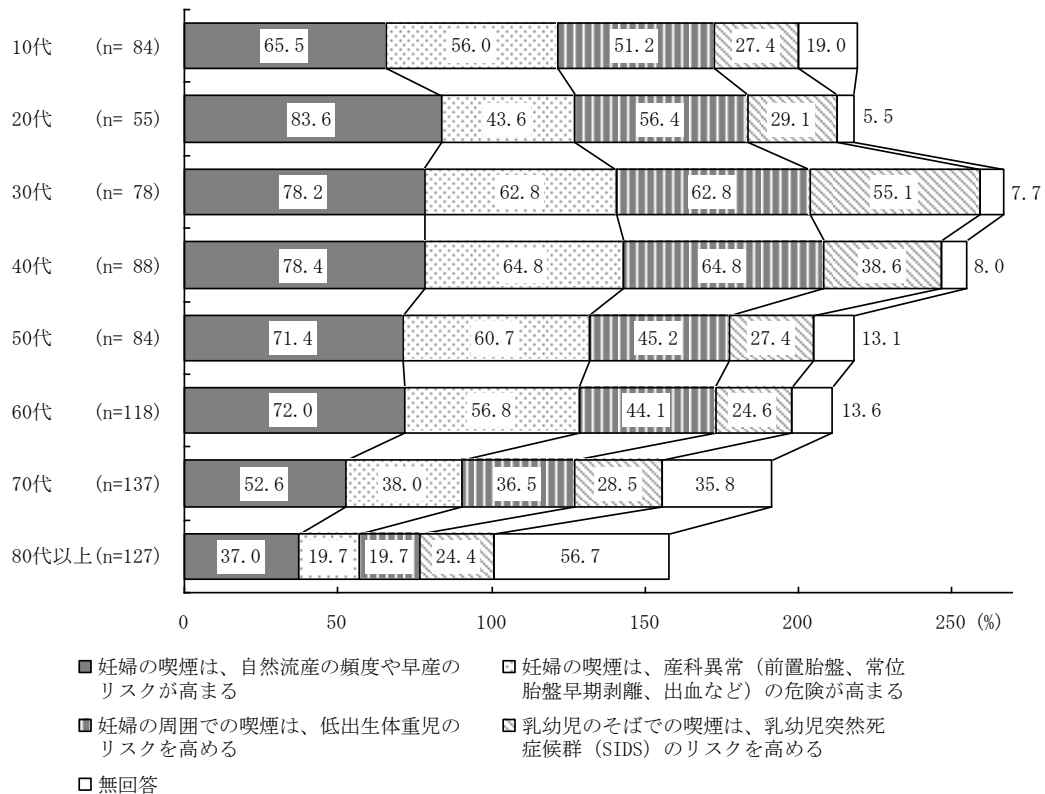


図 7-12 たばこによる妊婦・乳幼児への健康影響の認識（女性・年代別）

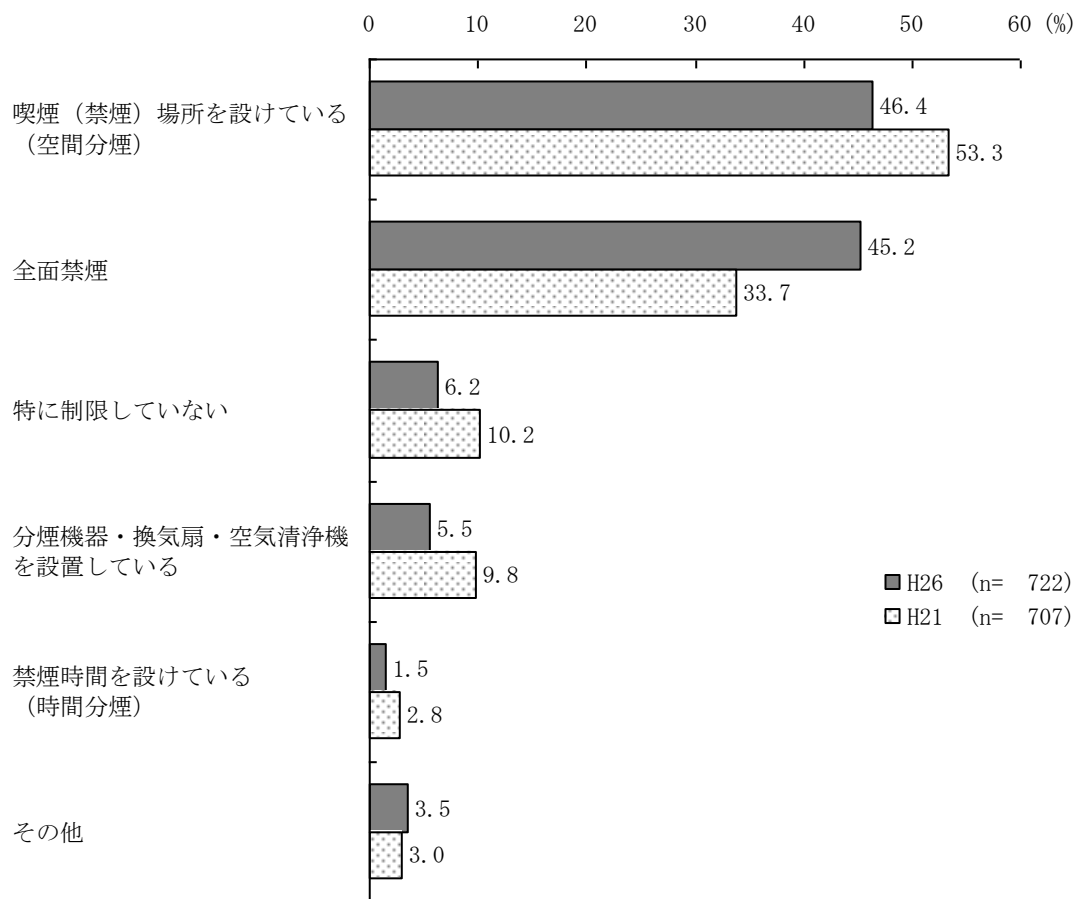


(5) 職場・学校の喫煙状況

— 全面禁煙に取り組んでいる職場・学校が増えている —

問 4 0 あなたの職場・学校の喫煙状況は、次のどれですか。
(当てはまるものすべてに○)

図 7-13 職場・学校の喫煙状況



※ 「仕事をしていない」、「無回答」の回答者数は、設問にある喫煙状況にない人として集計から除いた。

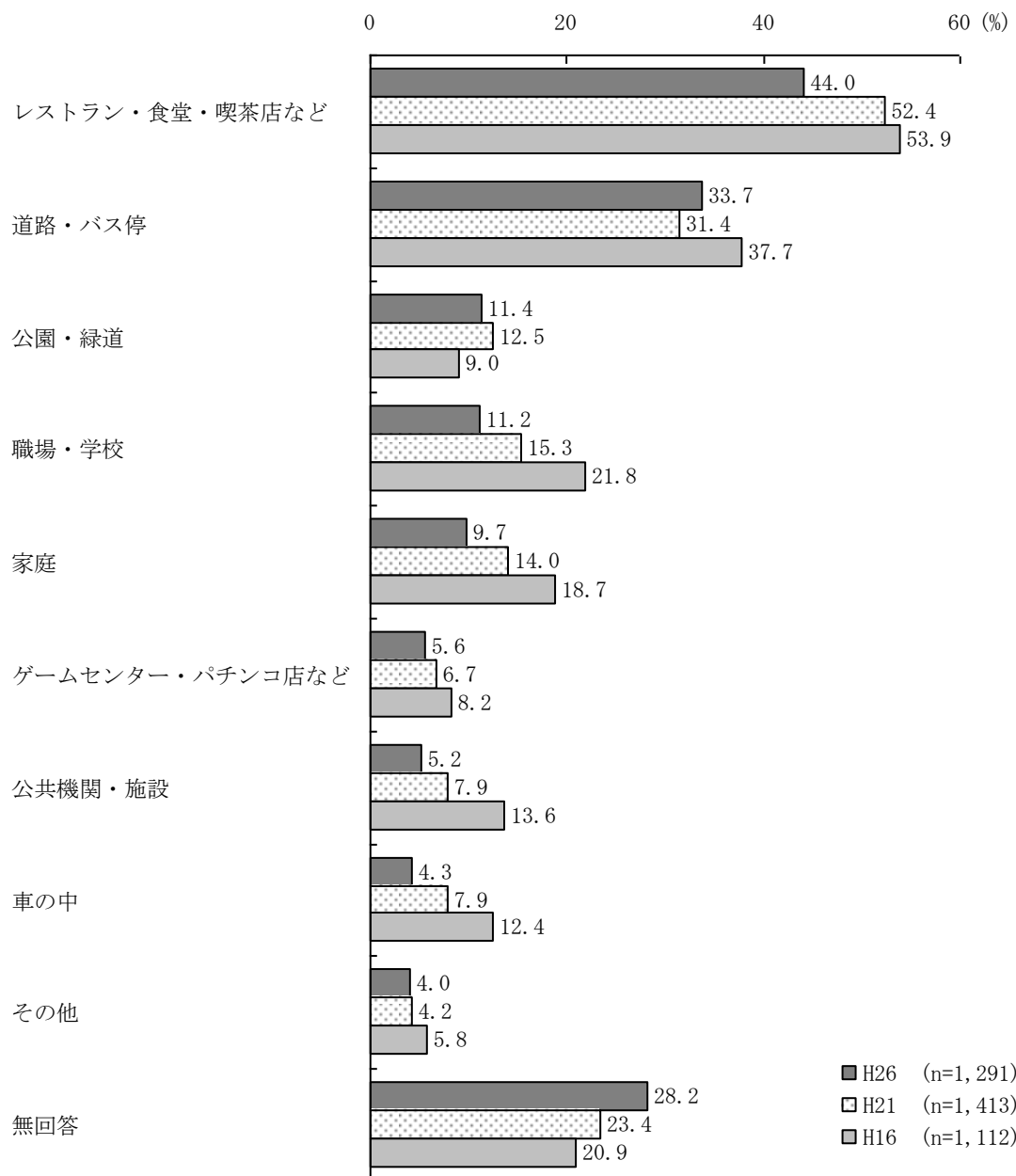
職場・学校の喫煙状況を聞いたところ、「喫煙（禁煙）場所を設けている（空間分煙）」(46.4%) が最も高く、次いで「全面禁煙」(45.2%) であった。また、「特に制限していない」は 6.2% であった。経年でみると、「全面禁煙」は 11.5 ポイント増えている (図 7-13)。

(6) 受動喫煙

—道路・バス停を除き、ほとんどの場所で受動喫煙の比率は低くなっている—

問 4 1 あなたはこの1カ月間に、次の場所で自分以外の人のたばこの煙を吸ったこと
 (*受動喫煙といいます)がありましたか。(当てはまるものすべてに○)

図 7-14 受動喫煙



この1カ月間に受動喫煙をした場所を聞いたところ、「レストラン、食堂、喫茶店など」(44.0%)が最も高く、次いで「道路・バス停」(33.7%)、「公園・緑道」(11.4%)、「職場・学校」(11.2%)、「家庭」(9.7%)の順であった。経年でみると、「道路・バス停」を除いた他

の項目は比率が低くなっており、特に「レストラン、食堂、喫茶店など」では8ポイントの減少となっている。「無回答」を除く71.8%が、いずれかの場所で受動喫煙にあっている(図7-14)。

『健康めぐろ21』の「5-2-1 受動喫煙の経験がある人(過去1ヶ月の間)の割合」については、平成27年度目標値は現状より下げるとなっているが、今回調査では71.8%であり、目標値を達成している(表7-5)。

表7-5 「健康めぐろ21」目標値との比較(5-2-1)

健康めぐろ21 行動目標		調査結果等				平成27年度 目標値
		計画 策定時 の状況	平成 16年	平成 21年	平成 26年 (今回)	
5-2-1	受動喫煙の経験がある人(過去1ヶ月の間)の割合	-	79.1%	76.6%	71.8%	現状より 下げる